

平成28年9月16日

国土交通大臣 石井啓一 様
国土交通省九州地方整備局長 小平田浩司 様
国土交通省九州地方整備局立野ダム工事事務所 所長 宮成秀一郎 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

立野ダム建設に係る技術委員会に関する抗議文

私どもは、「立野ダム建設に係る技術委員会」に対し、毎回要請書を提出し、検証内容の提案や現地調査のやり直し、住民への説明責任などを求めてきました。しかし、それらを検討することもなく、同委員会は初会合からわずか3週間で3回の会合を行い、あっという間に「立野ダム建設に技術的な課題はない」との結論を出しました。国土交通省が選んだ7名の委員も、国土交通省の見解に疑問を呈することはありませんでした。委員会の開催についても、わずか2日前に国土交通省立野ダム工事事務所のホームページに掲載するだけで、ほとんどの住民が委員会の開催を知ることさえできませんでした。

住民の主張に対し、同委員会の見解は「立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はなく、岩盤の健全性に問題はない」。流木や巨石で立野ダムの穴（高さ5m×幅5m）がふさがり懸念については「ダム本体の200m上流に建設するスリットダムと、穴の前に設置するスクリーンによってカットでき、穴がふさがりことはない」と結論付けました。

しかし、今回の地震による土砂崩壊とその後の増水で、熊本市内など下流の橋脚には多くの流木が引っかかりました。有明海にも大量の流木が漂着・漂流し、7月末までに1万6000立方メートル以上が回収されたと報じられています（熊本日日新聞2016年8月15日付）。それらの大半は阿蘇カルデラ内で発生し、立野ダム地点を通ったわけであり、スクリーンやスリットダムで防げる量ではとてもありません。現に、直径約10mの立野ダム仮排水路トンネルの入り口は、土砂と流木でふさがっています。

国土交通省が立野ダム下部の穴が流木などでふさがらない理由として、穴の上流側を覆うスクリーン（柵）をふさぐ流木が、ダムの水位が上がると浮いてくるとしています。その元となった模型実験では、ダムの穴をふさぐツマヨウジなどの円柱材が、ダムの水位が上がると浮いてくるとしています。しかし、実際の流木は根や枝がついており、水を吸って比重も大きくなっています。流木を穴が吸い込む力は、流木の浮力よりもはるかに大きいのは明らかです。実際の洪水では、流木も岩石も土砂も一緒に流れてきますが、今回の検証では流木、岩石、土砂、それぞれ単独で模型実験やシミュレーションを行っただけです。立野ダムの穴がふさがらないとする国土交通省の主張はありえないことです。

立野ダム完成後にこの地震が起こったとしたら、ダム水没予定地周辺の大半の地盤が大きく崩れていたわけであり、ダム上流は多量の土砂や流木で埋めつくされ、立野ダム下部の幅わずか5mの穴がふさがり、ダムへの流入量を貯め込むばかりとなり、洪水調節機能を果たせないばかりか、非常に危険な状態になっていたのは明らかです。にもかかわらず、国土交通省の従前の主張をそのまま容認した「立野ダム建設に係る技術委員会」の結論に強く抗議するとともに、下記3点について強く要請します。

記

1. 熊本県民の人命・財産を危険にさらす立野ダム建設を即時に中止すること。
2. 住民も含めた「立野ダム建設に係る技術委員会」を再結成し、立野ダム建設予定地周辺の岩盤や活断層、地すべりなどについての十分な再調査・再検討を行うこと。
3. 立野ダム建設に関して住民の疑問に直接答える説明会を開くなど、流域住民に対し説明責任をきちんと果たすこと。

以上